

その人らしい『生活』に寄り添う ～大切な活動や思いをあきらめないサポート～

Key word 生活行為と満足度,他事業所連携,保険外サービス

(株)リーフスタイル 作業療法士 山崎 純一

【目的】

高齢者が尊厳を持って暮らすことの重要性が示唆されるが,多くの方に生活意欲や自信低下がみられる.今回,大切な生活行為を把握し,対象者・家族,他事業所と協業した結果,活動の満足度,FIM,ニーズに変化がみられた.さらにあきらめていたニーズの実現に向けた取り組みについて考察を踏まえ報告する.

【説明と同意】

本報告に際し,本人・家族より書面にて了承を得た.

【方法】

活動の満足度(ADOC),FIMを評価し,他事業所での生活介助や生きがい活動場面へ参加,協業した.また,個別性の高いニーズの実現に向けた連携や保険外サービスを実施した.

【結果】

症例は90代女性,右肩・左膝骨折と慢性腰痛を認め臥床傾向.屋外車椅子で在宅復帰され,右上肢の参加経験が少なく身辺動作や生きがい活動を能力以上にあきらめ,大切な活動の満足度1.2点,FIM82点であった.通所介護でのADLと生きがい活動場面への参加,訪問でのADL練習,疼痛緩和を実施した結果,自宅での生きがい活動や屋外歩行を再獲得され満足度4.2点,FIM112点に向上した.さらに『役に立ちたい』『姉との再会』を望まれ,旅サポートや作品販売の保険外サービスを起ち上げ,家族等の合意を得て実践した.

【考察】

対象者の大切な思いを知り,様々な生活の場に参加して評価・連携したことが効果的なADL向上,意欲・自信回復に繋がり,あきらめない心が芽生えたと考える.本当にやりたいことの実現にはさらなる周囲との連携,事業所の持てる力を活かす視点が求められる.その過程での連携は相互の充実感・自己効力感を高め,現場での地域包括ケアとしての有効性を含み,その実現には顔の見える関係作りや社会資源の充実が求められる.

【まとめ】

住み慣れた地域でその人らしく暮らすための具体的方策には,医療・介護分野が相互に連携し合う体制を構築し,地域において一体的に提供される必要性が述べられている.その人らしい生活を知り,専門的な根拠の元に分かり易く目標を明確化・共有し,継続的に支えられる社会資源の充実は『人・地域が元気になる』ための大切なツールになり得る.